

## 入試

- ①基本的に自己推薦の形をとる。
- ②選考は、「書類審査（自己推薦書・志望理由書・活動報告書）＋面接」が主流。
- ③選考では面接が重視され、時間や日数をかけて綿密に行われることが多い。
- ④従来の推薦入試には無かった、模擬授業やグループディスカッション等が行われている。
- ⑤専願制が多く、調査書の評定平均値の基準や現浪の制限無しが多い。

※多様な選抜方法・・・

- 上記の他にも英語力判定試験・講義理解力テスト・課題作品の制作や、実習・実験後のレポート提出など選抜方法は多岐に渡る。
- 実施回数自体も各大学により様々なため、実施時期は要注意（推薦入試より早い日程が多い）。

### 大学入学共通テストの導入

- センター試験に代わり、2021年1月より実施。（2019年現在、高校2年生が該当）
- 全マークシート方式の見直し ⇒ 「思考力・判断力・表現力」を重視

- ①英語において民間の資格・検定試験を採用。（2023年度までは民間試験と共通テストを併用）（※注1）  
・「読む」「聞く」の2技能に加え、「書く」「話す」の計4技能を確認する。

・ケンブリッジ英語検定 ・ TOEFL iBT ・ ~~TOEIC L&R、S&W~~ ・ GTEC  
・ GTEC CBT ・ TEAP ・ TEAP CBT ・ 実用英語技能検定（英検）  
・ IELTS  
※以上のスコア、CEFRの段階別表示（A1～C2の6段階）、合否結果が提供される。

- ・高校3年生以降の4～12月の間に受検した2回までの結果が大学に提供される。  
ex) 現行、英検は年3回実施。上記内には2回が該当。
- ・活用方法は、「出願資格とする」「共通テストの英語の得点に加点する」「双方を組み合わせる」の3つが基本。

（国立大学協会によるガイドライン抜粋）

CEFR対照表に基づく水準ごとに加点の点数を定め、その最高点が共通テストの英語の成績と合わせた英語全体の満点に占める割合を適切な比重（例えば2割）となるようにする。

※公立大学も上記に準ずる方針。

※2019年9月現在、各大学の足並みは揃っていない。

※注1：令和元年11月1日に文部科学省より、2021年度大学入試における英語民間試験を活用した『大学入試英語成績提供システム』の導入の延期が発表されました。

- ②数学・国語において記述式を導入。（理科・地歴公民については2024年度より予定）